

富岡・エコ・広報

(第24号)

発刊日 2017年9月吉日

発行元：富岡地区環境推進員協議会 発行責任者：田中 美光

事務局：富岡まちづくりセンター

<http://www.town-tomioka.click/kankyo/>

「富岡・エコ広報」はインターネットからも閲覧可能です



富岡地区は中富、十四軒、フラワーヒル、神米金、所沢新田、北田、岩岡、三商北中、向陽ハイツ、下富、武野台、ネオポリス、郊外マンション、さつき台、上岩岡、北中、東海、エステシティの18地区で構成されています。

巻頭言 「ご挨拶」

富岡地区環境推進員協議会 会長 田中 美光

私は、富岡地区環境推進員協議会の塩谷会長の後を受け、この度、会長職を引き継がさせていただきました。

協議会の運営につきましては、前会長の理念でありました「深い思いやりの精神で、前向きに、明るく、そして、結果として、役員、理事、推進員、事務局の皆様と、楽しく、充実した時間の共有を志向する。」ことを踏襲していきたいと思っております。「継続は力なり」と申します。塩谷前会長が歩まれた足跡を継続することが今後の協議会の運営の大きな力となり得ると確信しているからであります。その上で、地域における新たな課題についても積極的・能動的に行動(アウトリーチ)し地域環境の向上につなげていければと考えております。



私たち環境推進員協議会の皆さんと富岡地区等のそれぞれ他団体の方々との連携し、さらには行政とも連携し一体となって活動すれば強固な力となり、地域の環境を私たちでつくり出すことができると思います。そうした活動を通して環境推進員と地域の皆さん方の絆がなお一層深められます。「人が環境をつくり、つくられた環境が人をつくる」と言われておりますが、まさに、私たちがこの言葉を行動をもって実証することになります。

先人が維持してきた良好な環境を私たちの時代に悪化・後退させてはなりません。未来の子供たちのためにも私たちの英知を結集し快適な環境づくりに努めていきましょう。それが今を生きる私たちの責務ではないでしょうか。

皆様のお力をお借りし、地域環境の維持・向上に努力していきたいと考えております。

ご理解とご協力、また、ご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

●2017年春の環境美化の日

十四軒自治会環境推進員 水村 稚子

どうして道路や植え込みにゴミが落ちてるんだろう... どうして車からポイ捨てるんだろう... どうしてそれができるのか、本当に不思議で、腹が立ちます。

こうして、年に2回、環境美化でゴミ拾いをしていますが、毎回大量のゴミが集まります。

愚痴? から始まりましたが、今年の春の環境美化は、5月28日に実施されました。十四軒自治会では、大人子供合わせて80名以上が参加して、ゴミを拾いました。集めたゴミは分別しますが、泥にまみれてリサイクル不可になってしまうようなゴミがたくさんです。なかには車の部品のようなゴミもありました。

子供たちがたくさん拾ってきて、笑顔で分別してくれたので、こちら自然と笑みがこぼれました。

途中農家さんから野菜をいただいたりするの、この地域ならではのですね。

私たちが住んでいる地域がきれいになるのは気持ちがいいものですが、理想は、ゴミ拾いをせずともきれいな街です。

ゴミはその場でポイせず、家に持ち帰って分別して捨てましょう。



◆視察研修に参加して



神米金自治会環境推進員 西海 広司

7月27日、東部クリーンセンターとカルチャーパークの視察研修に参加しましたので、東部クリーンセンターの施設見学について感想を報告します。

まず、会議室で施設紹介DVDを視聴し概要説明を受けました。

その後、工場見学となりました。工場の中に入ると思っていた以上に巨大で、においなどもほとんどなく、きれいな施設だと思いました。

案内者の丁寧な説明を受けながら、焼却システム・余熱利用発電システム・排ガス処理システム・焼却灰溶融システムなどの施設・機械を見学しました。印象に残ったのは、焼却灰溶融システムと巨大なごみピットでした。余熱発電した電気を利用して焼却灰を溶融炉で溶融処理し、スラグ化・メタル化して、体積を半分にし、一部を再資源化します。これにより、最終処分場での埋め立てを減らすことが、できるとのことです。

巨大なごみピットにごみが投入され、10数メートル積み重なり、それを巨大なごみクレーンで移動する様子を見ると、本当にごみ自体を減らさなければ、いけないと思いました。

また、できることならば多くの方がこのクリーンセンターを見学できればと思いました。



ゴミは巨大クレーンで移動されます



ゴミピットの見学

●歩きタバコ防止啓発キャンペーンに参加して

富岡地区環境推進員協議会 会長 田中 美光

新所沢地区の環境推進員、富岡地区の環境推進員、市役所職員の皆さんが7月4日18時に新所沢駅東口に集合しました。

当日は、駅を中心とした一定区域について、まず、路上喫煙いわゆる歩きタバコ及びポイ捨て禁止を呼びかけると同時に吸い殻を拾って歩きました。その後、駅前に戻り携帯用灰皿、ティッシュを歩行者に配布し、再び歩きタバコ等の禁止を呼びかけました。当日、歩きタバコをしている人の姿は、私に限っては見かけませんでした。

近年、タバコを喫煙することによる自分自身の健康被害、受動喫煙等々の問題から喫煙率が下がっている状況にはあると思いますが、タバコはあくまで嗜好品であり、喫煙率は下げ止まりではないかと思えます。

「歩きタバコの禁止条例」は、2002年(平成14年)に東京都の千代田区が条例を最初に制定したと私は記憶しておりますが、千代田区の条例制定以降快適な環境を確保するため全国各地の自治体でこの条例が制定されてきております。所沢市も「歩きタバコ等の防止に関する条例」が制定され、平成18年7月1日から施行されています。条例制定後11年が経過し、市、環境推進員等によるこれまでの継続したキャンペーン活動等の地道な努力によって歩きタバコ等は確実に減ってきていると思えます。

これからも、快適な生活環境確保のため、市、環境推進員、地区の皆さん等が連携し一体となって活動を継続していくことが、目的達成のための手段ではないかとの活動に参加して強く思った有意義なひと時でした。

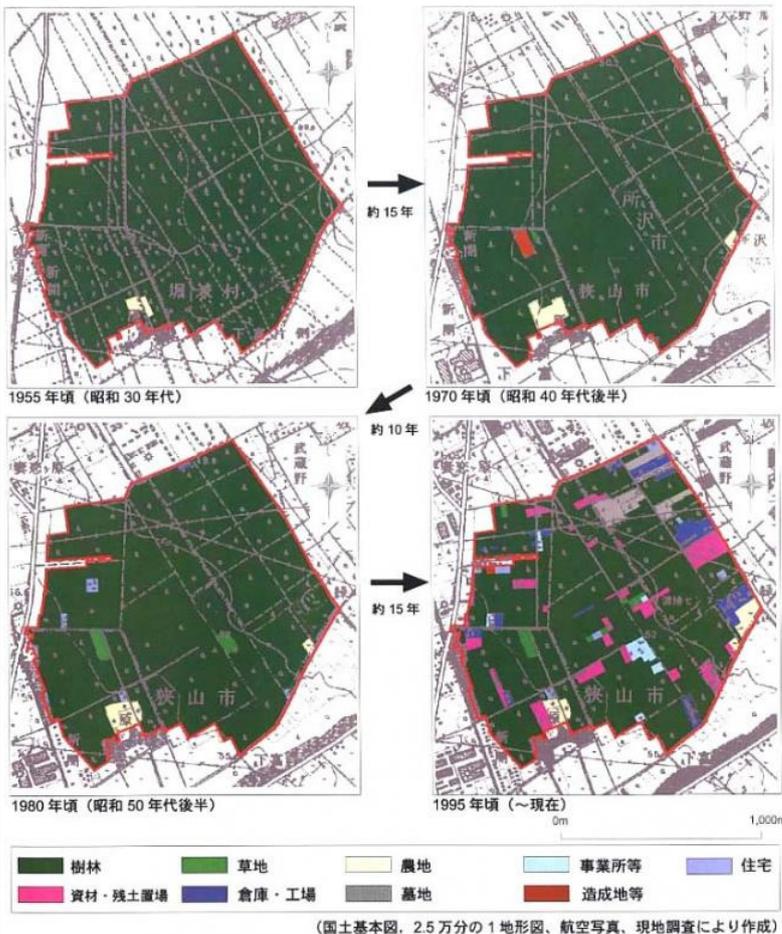


提供：所沢市環境推進員連絡協議会

◆「くぬぎ山保全活動」に思いを寄せて

下富自治会環境推進員 山崎 和正

6月の環境推進員協議会理事会の議題の一つに、視察研修の候補施設について話し合われました。その中で北田、向陽ハイツ自治会の理事の方から産業廃棄物の処理施設に対して「いい企業だ」という意見があり、少し違和感がありました。



20年程前には、くぬぎ山周辺を視察に来た他地域の方から煙や悪臭に対して「よくこんな所に住める。」という声もありました。

現在でもこの地域の周辺には産業廃棄物関連の集積所が増え、幅員の狭い道路を20トン超のトラックが行き交い、廃棄物を満載したトラックの中には、荒っぽい運転をするドライバーがいます。怖いと感じる場面があります。住んでいての印象と、他から来て見て帰るのでは受ける印象に差があるのだと感じます。

この図(左図参照)の色分けされていない部分にも廃棄物の集積所、墓地もあり嫌悪施設が密集しています。私は土地利用に偏りがあると考えます。

しかし、最近では北田、向陽ハイツ自治会の理事の方のように廃棄物処理の施設に対して好印象を持つ方もあり、今後はそこへの嫌悪施設の受け入れも考えられます。嫌悪施設について、ある程度は接してゴミなどがどのように処理されていくのか意識していくのも大事なのではないのでしょうか？

これからは理解のある地区へ廃棄物関連の施設、墓地が分散されていくことがくぬぎ山周

辺の偏りのある土地利用の解消に繋がると思い、希望を感じます。

●郊外マンションの環境美化推進について

郊外マンション自治会環境推進員 足立 一雄

郊外マンションは約300世帯、築後約40年となっております。樹木も大きく育ち、春は桜がきれいに咲き、比較的ゆとりある団地のたたずまいは、なかなかのものと思っております。

当マンションの真ん中に大きな県道が開通しそこに歩道ができました。この歩道に沿って約100mを花壇として利用しております。

環境部員とマンションのボランティアの方で小さな花を植えて、水をまき、除草等実施しております。小さな花は、きれいで心を和ませてくれますが、気を抜くと枯れてしまいそうで心配となります。今まで何気なく通り過ぎていたマンションの歩道の花でした。

他の街のきれいな花壇等を見ますとその街の方々の苦勞が思われます。まだ、環境推進員として私の活動は短いのですが、先輩の努力に負けぬ様にせねばと考えております。



◆「もったいない市」雑記

中富自治会環境推進員 中村 幸雄



2017年度、春の「もったいない市」は、6月4日(日)中富南コミュニティセンターで午前9時～午後3時まで行われました。

「もったいない市」は、古着、古布、食器(陶磁器・ガラス食器)で不用となった品を持ち寄って

いただき、来場された方が気に入れば1点、100円(食器は1セットで100円)でお引き取りいただけるというものです。今回は、54名の方が品物を持ち寄っていただき、売上は、11,100円となりました。

この金額は、「所沢市緑の基金」に全額寄付をさせていただきます。

残念ながら売れ残った物は「所沢エコステーション(東部クリーンセンター内)」に運び、再度、販売され、さらに残った物も業者の方に引き取っていただくといった徹底したシステムを構築しています。

Tシャツからジーパン、コートまで、一律100円です。もし、気に入ったコートがあり、ワンシーズンで5回着用すれば、1回20円の計算になります。育ち盛りのお子様の衣料も同様です。

無駄をなくすため、再利用が可能なものはぜひこのシステムをご活用いただけますようお願いいたします。ただ、そのためには、主催者側から利用される方への発信方法が重要だと思います。

多くの方から「もったいない市」の活動を知らないと言われます。案内のチラシ等が直前に届いたというケースも聞きました。

また、この会場を利用するのは例年のことらしいのですが、エステシティ自治会の新理事の方には、連絡がいかなかったようです。さらに、会場となった「中富南コミュニティセンター」は富岡地区の最東端ということもあり、利便性が良くありません。

素晴らしい企画なので民官が連絡を密にし、多くの方が楽しんで利用でき、このシステムが発展することを祈っております。

次回の「もったいない市」は
日時 11月19日(日) 9時～15時
場所 中富南コミュニティセンター

●富岡地域づくり協議会における富岡地区環境推進員協議会の役割について

富岡地区環境推進員協議会 会長 田中 美光

昨年度(平成28年4月)から、富岡地区環境推進員協議会は、富岡地域づくり協議会に加入しました。協議会の組織は、5つの部会と広報委員会で構成され、加入団体は富岡自治連合会をはじめ27団体となっています。

「ふるさと富岡」の培われた歴史を踏まえ、様々な地域の課題を掘り起こし、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識をもち、富岡地区関係団体がつながりをもって課題解決を図り、安心して暮らしやすい地域づくりの実現を図ることを目的としています。

別な解釈をすれば、今まで別々に活動することが多かった地域団体が同じ組織の仲間として地域の課題を共有し、課題解決を図り、安心して暮らしやすい地域づくりの実現を図るということだと思います。

今、各団体が行ってきた事業を地域づくり協議会の事業として行われており、富岡地区環境推進員協議会は、環境部会として「地区内の環境の保全やゴミの減量・リサイクルの推進」が主な所掌事業になっています。

地域づくり協議会の設立と同時に地域学習・振興部会の新たな事業として「富岡地区ウォークラリー大会」が行われてきております。

参加されている方も多いと思いますが、改めて富岡地区を知るよい機会と地域の絆が深められる場ともなっています。環境部会としても、どのように、新たな事業を展開していくのかは課題です。

手をこまねいていても課題解決や新たなものは展開できません。私たち環境部会は、地域づくり協議会の目的である「小さな課題であっても皆で考え行動をおこす」ことで役割の第一歩を踏みだしていけるのではないのでしょうか。皆さんのご理解とご協力をお願いします。



～編集後記～

8月は、東京で40年ぶりに16日間連続の雨が観測されるなど夏らしさを感じることができませんでした。最近の異常気象を聞くたびに地球環境の問題を考えてしまいます。

この号が発行される頃は、秋の気候になっているのでしょうか?

上岩岡自治会環境推進員 田村 幸弘